

JR総連北海道地方協議会青年部 第23回定期委員会



12月23日かでの2.7において第23回定期委員会が開催され、地本青年部からは委員・傍聴合わせて12名が参加してきました。中井青年部長は①平和・暮らしの危機②たしろ応援プロジェクト③地協青年部の課題が提起され、旅客と貨物が一緒だからこそ取り組めることに着手していきたいと述べました。また、JR総連北海道地協酒井副議長から、「国鉄分割民営化当時のスキームが現在とはかけ離れていることを訴え、国鉄分割民営化30年検証をするべき」との考えが示されました。東北地協青年部長と事務長が来賓として駆け付け、北海道・東北地協間交流の成果と課題について確認してきました。JR北海道は「選択と集中」「縮小均衡」の経営が成されようとしており、ローカル線の廃止や無人駅の増加など、雇用に関わる問題が山積しています。JR貨物は鉄道事業の黒字化に向けた効率化、コスト削減が実施され、旅客・貨物共に経営からの締め付けが大きくなっています。同じJR総連の旗のもと結集している仲間が連帯して取り組みを強化して、安倍政権や会社に立ち向かい、私たちが臨む社会、会社を作っていくことを全体で確認してきました。

たしろかおる応援プロジェクト貫徹 安心して働ける社会・会社の実現 を目指して頑張ってください！